

[資 料]

市民トライアスリートの競技環境に関する一考察

—'98長良川国際トライアスロン大会参加者への実態調査から—

井上由佳子*・千葉吟子**・山田 保*

(平成12年10月23日受付,平成13年1月16日受理)

A Study of Athletic Circumstances for Civic Triathletes

—Regarding the Questionnaire Study in Participants
of '98 Nagaragawa International Triathlon—

Yukako INOUE, Ginko CHIBA and Tamotsu YAMADA

The triathlon game was fixed at the official item of the Sydney Olympic in 2000.

However, the participation is admitted to JOC in 1998 at last and the recognition as the game party that the history in our country says 10 several years was approved even the participation to Japan Amateur Sports Association. On the other hand, reviving and do and aim for the village the vitalization of an/the area a/the game has been carried out numerously. Also, the game participation to the convention of a junior player increased after Olympic decision. Therefore, making the organization in the junior high school and senior high school leader demand has become needed. Furthermore, the problem that must solve it for the future development such as large sum of money-ization of the security, participation expense of problem and, social welfare activities of the safe security of a/the participant in an/the athletic meet exists numerously.

It makes that collects the foundation data of to that make each policy that solves the above various problems in this research and turned the eye to the improvement of the diffusion and development and game power of the triathlon in our country the purpose.

Key words: Triathlon, Triathlete, Athletic circumstances

キーワード: トライアスロン, トライアスロン競技者, 競技環境

はじめに

ラテン語の3を意味する「トライ」と運動を意味する「アスロン」の合成語でできているトライアスロン競技は、1974年世界で初めてアメリカのカリフォルニア州サンディエゴ市で競技会が行われ、2000年シドニーオリンピックにおいて正式種目として実施された。初めはラン5.3マイル(8.48 km)バイク5マイル(8 km)、スイム600ヤード(548.64 m)の距離と順序で実施されたが、1975年からスイムで始まる現在のフォーマット¹⁾になった。

その4年後の1978年には、「2.4マイル(3.84 km)のワイキキ・ラフ・ウォータースイムと122マイル

(179.2 km)オアフ島一周バイクレースと26.2マイル(42.195 km)のホノルルマラソンではどれが一番大変か」とのハワイのオアフ島での海兵隊員の酒席のジョークからウルトラロングディスタンス(225.2 km)の「ハワイアイアンマン」大会が始まった。

一方、総合距離51.5 km(スイム1.5 km, バイク40 km, ラン10 km)の競技は1983年に制定され、1989年には国際トライアスロン連合(ITU)の創設により、オリンピックへの正式競技採用を目指してこの距離を「オリンピックディスタンス」と呼ぶようになった。現在では世界で行われるトライアスロンの80%以上がこの距離で行われている¹⁾(付表1)。

* 運動処方研究室, ** 体操競技研究室

日本での最初の大会は1981年に鳥取県米子市で行われたロングディスタンスの皆生大会である。1985年には宮古島、琵琶湖でのロングディスタンス、そして天草で日本初の51.5 kmのレースが行われ歴史的な年となった。1994年には日本トライアスロン協会と日本トライアスロンのほかトライアスロンクラブ・団体が大同団結し、日本トライアスロン連合が発足した。

現在我が国のトライアスロン愛好者は、トライアスロンに興味を示す潜在アスリートを含め、29万人を超えと言われ、1年間の開催大会は日本国内で200を超える。世界では120以上の国と地域で行われ、ワールドカップや世界選手権の放映が世界90カ国以上、3億5,000万世帯で楽しまれている。

我が国における歴史は約20年というものであり、競技団体として1998年JOCへの加盟が認められ、日本体育協会への加盟も承認された。一方村興し、地域の活性化を狙いとする競技も数多く行われてきた。またオリンピック決定後は、ジュニア選手の大会への競技参加が多くなった。しかしながら、競技会における参加者の安全確保の問題、ボランティアの確保、参加費の高額化等、市民トライアスリートの競技環境には解決しなければならない問題が多く存在することも事実である。

本研究は市民トライアスリートの競技環境の現状を明らかにし、我が国におけるトライアスロンのさらなる普及と発展を図る諸施策の作成に寄与するための基礎資料を収集することを目的とした。

方 法

1. 調査対象

平成10年7月26日に実施された日本トライアスロン連合主催の「長良川国際トライアスロン大会」に出場した384名の全参加者に、競技会終了後主催者より後日送られる記録証とともに質問紙を郵送し、回答を依頼した。

2. 調査方法

質問紙：運動実施状況などの個人プロフィールを含む個人属性に関する8項目、長良川大会に関する6項目、トライアスロン競技に関する19項目の3部門合計33の質問項目からなる「トライアスロン競技に関する意識調査」を作成しこれを用いた。使用した質問紙は本論末尾に掲載した。

3. 回収率

384名参加者全員に回答を依頼し、回収率は267名で、55.3%であったが、全項目について回答があったものは155名回収率32.1%であった。そのうち男子は

143名、女子は12名であった。

結 果

図1は回答者の年齢を示したものである。30代が39%と最も多く、次いで40代、20代、50代となり、10代と60代は回答がなかった。性別では、男子が92.2%、女性は7.7%であった。

図2は出身スポーツを示したものである。特にスポーツをしていなかった者やスキー・ボートといった種目をしていない者を含むその他のスポーツが最も多かった。ついでトライアスロンに含まれる陸上、競泳、野球、テニス、バスケットボール、サッカー、バレーボールの順であったが、職業別では会社員が最も多く、ついで公務員、自営業の順であった。

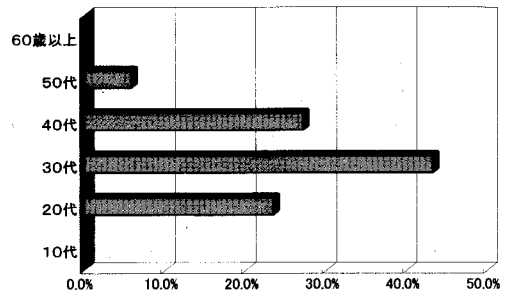


図1 大会参加者の年齢

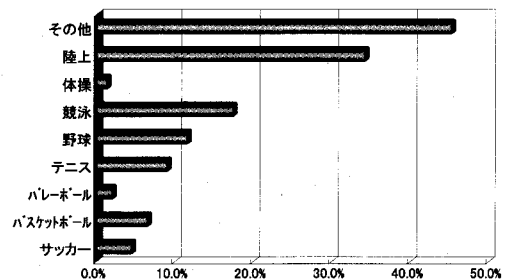


図2 大会参加者の出身スポーツ

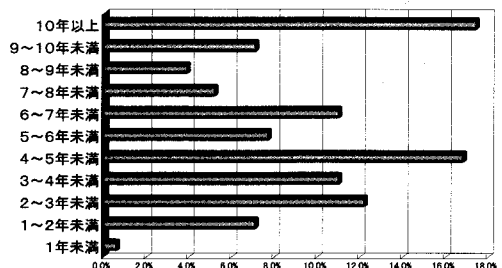


図3 トライアスロン歴

図3はトライアスロンを始めてからどのくらいの年数が経過しているかを示したものである。日本で初めてトライアスロンが開催されるようになって約20年になるが、10年以上が17.4%と最も多かった。ついで4~5年未満、2~3年未満が多く、1年未満が最も少なかった。

初レースへ参加した年齢については、5歳ごとに分けて初レース参加年齢をアンケートしたが、26~30歳が23.9%と最も多かった。

図4は初めてレースに参加しようと思ったきっかけや動機について示したものである。「友人・知人に誘われて」が40.0%と最も多く、ついで「新聞・雑誌を見て」、「その他」、「テレビを見て」の順であった。

図5は大会に出場する目標と目的について示したものである。最も多かったのは「自己ベストの更新」で59.3%、ついで「楽しくレースを行う為」、「完走」の順であった。

また、本大会への参加のきっかけや動機については初めてレースに参加しようと思ったきっかけや動機とは異なり、「会場が近い」が63.9%と最も多かった。次いで「開催時期がよい」、「その他」、「部門別でレースが観戦できる」、「コースに興味があった」、「友人・知人に勧められて」の順であった。

図6は大会に出場する際にどのような点に考慮をしたのかを示したものである(複数回答可)。長良川大会に

参加しようと思ったきっかけや動機と同様に「会場までの距離」と会場が近いことが85.2%と多かった。ついで「開催時期」、「友人・知人との参加」、「その他」、「コース状況」、「参加費」の順であった。

開催場所までの移手段については、複数の交通手段を使用することも含みアンケートしたが、自動車での移動がほとんどであり、公共交通機関の利用はわずかであった。

図7は大会にかかった費用を示したものである。1回の大会に出場する参加費とは別に必要とする費用は「2~3万未満」が最も多く87.7%であった。また、ほかには地方から参加する選手もいるので少数ではあるが「6万以上」の費用を必要としている者もみられた。

図8は年間にかかる費用の合計について示したものである。最も多かったのは10~15万23.2%であり、ついで15~20万、20~25万となり、10万以上(1回平均

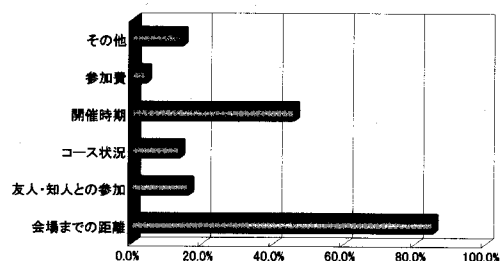


図6 大会選択の理由

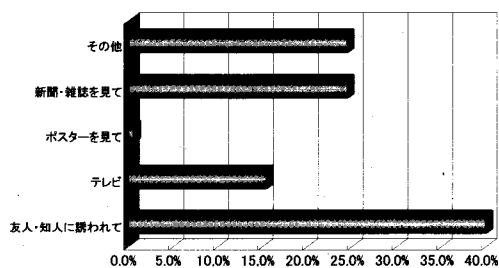


図4 初レースに出たきっかけ

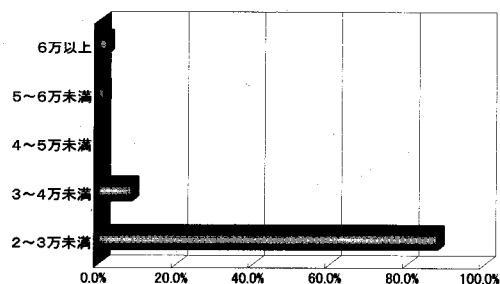


図7 大会にかかった費用

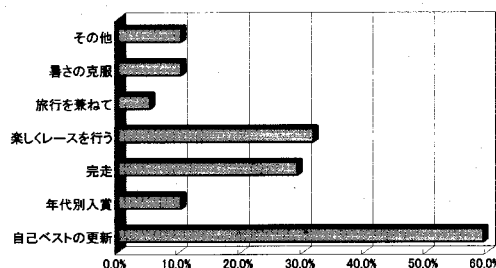


図5 大会参加の目標・目的

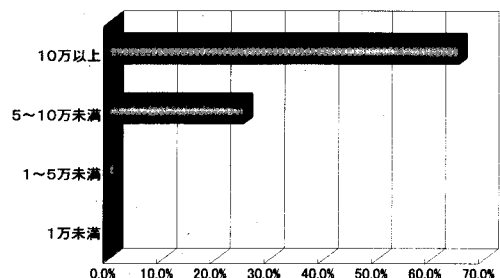


図8 トライアスロンに関する費用の合計(年間)

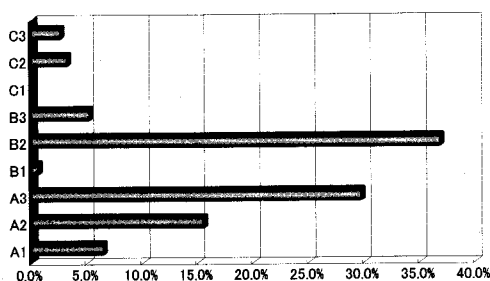


図9 チームまたはグループへの所属
A. している, B. していない, C. 特になし,
1. 一緒に練習, 2. 個人で練習, 3. 1・2 両方

約30,000~40,000円)が65.1%という結果であった。最高では64万という選手もいた。

そのうち参加費用については、最も多かったのは5~6万18.7%であり、92.2%の者が3万以上かかっているという結果であった。最高では24万という選手もいた。年間にかかる移動費は、参加費と同様に3万以上(1回平均約8,000~10,000円)65.1%という結果であった。最高では40万という選手もいた。

年間にかかる宿泊費については、参加費・移動費と同様に3万以上(1回平均約7,000~8,000円)が最も多かった。

年間にかかった道具・器具の費用については、最も多かったのは「5~6万未満」36.1%、次いで「20万以上」、「10~15万未満」と「15~20万未満」であった。なお、最高は70万であった。

図9はトライアスロンがあるチームまたはグループに所属し、練習しているか。また一緒に練習しているかどうかについて示したものであるが、「所属はしないで個人で練習をしている」が21.3%と最も多く、「所属をし、一緒に練習している」者は4.5%であった。

身近にトライアスロンを総合的に指導してくれる指導者の有無については、「指導者はいない」が93.5%という結果であった。

さらに指導者の必要性については指導者を求める者が69%を占め「特に必要でない」の31%を大きく上回った。

考 察

生活の中にスポーツを豊かに取り入れ、気軽にスポーツを楽しんでいる人、また健康維持のために運動をしている人は、我が国成人の13.0%およそ8人に1人といわれているが、近年余暇活動のスポーツ部門においては、必ずしも参加率が増加しているとはいえない。トラ

イアスロンを構成するスポーツ種目における参加率についてみると、「水泳(プールでの)」はほぼ横這いであり、「ジョギング、マラソン」は平成9年までは堅調に推移していたが、平成10年には減少した²⁾。「サイクリング、サイクルスポーツ」は一時減少したものの平成10年にはわずかに増加がみられた³⁾。トライアスロン競技への参加者数の推移については明確な資料がないが、社団法人日本トライアスロン連合の加盟者数に大きな増加は見られていない。

こうした中で、本大会参加者のトライアスロンへの取り組みのきっかけや動機は「友人・知人に誘われて」という理由が最も多く、競技会への移動については「家族の同伴」「友人・知人との同乗」が多数を占めていた。さらに本大会参加の目標・目的には「自己ベストの更新」「楽しみ」のみならず、「旅行を兼ねて」もみられた。また、チームまたはグループに所属せず個人で練習している参加者が最も多かった。このことから、トライアスロンは「自立的な活動としてのスポーツ」「人間関係を創造する活動としてのスポーツ」「共有のスポーツ」という望ましいスポーツのあり方を十分に有しているものと考えることができる。

一方、我が国のトライアスロンが抱えている問題点を本調査から考え、その解消策を提起するとすればその一つは、身近な場所での低額の参加費によるインフォーマルあるいはセミフォーマルな競技会の開催である。本調査で明らかのようにトライアスロン競技会の参加費は他のスポーツ、特に水泳や陸上と比較して明らかに高額であり、また湖沼や海において競技会を開催しなければならず、開催地が限定されてしまうことから同時に宿泊を伴うこととなり経費の増加を当然生じることとなる。大会出場する際に考慮する事項として「会場までの距離」が最も多かったのはこうした理由からと考えることができる。公道利用が厳しく制限される我が国の現状からも、運動公園等を利用した身近な場所でのインフォーマルあるいはセミフォーマルな大会開催への積極的な取り組みが必要である。また、大会においては高額な参加費を支払う参加者に対する運営費の公開等、主催者側の対応を改善することも必要であろう。我が国経済がバブル崩壊後の不況にある中、労働時間は大幅に短縮されたにもかかわらず人々の実感としては「時短あって、ゆとりなし⁴⁾」と言われているが、「ゆとり」の中には時間の要素だけでなく当然余暇、スポーツに必要な経費の問題が含まれていると解するべきである。

他の重要な問題点は指導者養成である。参加者の多くがチームやクラブに所属しておらず、身近にトライアス

ロンを指導してくれる指導者がいない者が90%を超えていた。スポーツを継続させる要因としては目標の設定、楽しみ、仲間の形成のほか、経験と科学的知識を有する指導者の存在が必要である。社団法人日本トライアスロン連合では、国民体育大会への参加を年頭に中・高等学校へのトライアスロンの導入を働きかけているが、文部省が策定した新たな「スポーツ振興基本計画」にみられる総合型地域スポーツクラブ構想をも見据えた指導者養成システムの早急な確立についても考えなければならない。また、学生クラブ組織を有する体育系大学・学部においては単に競技力を競うことを目的にクラブ運営を行うのではなく、卒業後にトライアスロンを総合的にかつ科学的に指導することのできる指導者の養成も十分考慮して、組織の運営と指導を行わなければならないと考える。

まとめ

我が国におけるトライアスロン競技のさらなる普及と発展を図るための基礎的資料を得るために、我が国の代表的なトライアスロン競技大会である「長良川国際トライアスロン大会」に参加した競技者に質問紙法による調査を行い以下の知見を得ることができた。なお、対象は385名の全参加者で回収率は55.3%であったが、分析はすべての項目に回答が得られた155名(32.1%)について行った。

1. 参加者は30代、40代の年齢層が多く、職業では会社員が最も多かった。高校生・大学生の参加者は少なかった。
2. 参加者の過去において行っていたスポーツを競技種目別にみると陸上、競泳の順に多くトライアスロンの競技特性が認められた。
3. トライアスロン競技の経験年数では10年以上の

参加者が最も多く、我が国においてトライアスロンが導入された当初からの経験者が多く参加していることが推測された。

4. 競技会参加のきっかけは、友人・知人に誘われてが多く、また大会出場の目的では自己記録の更新、レースを楽しむが上位であった。

5. 競技会を選択する要素として考えられているのは、会場までの距離、開催時期が上位であった。

6. 競技開催地までの移動手段は、自動車によるものが多かった。

7. 個人で練習をしている者が多く、このことから指導者の必要性を訴えるものが多かった。

我が国に渡来して約20年しか経過していないトライアスロン競技であるが、本調査によれば望ましいスポーツのあり方を有していることが明らかになった。しかしながら、本調査に見られるように、大会参加に関わる多額の費用、経験と科学的指導法を有する指導者の必要性等の課題も多く、今後の組織的な取り組みの必要性が急務であると考えられる。

付記 当研究は、「平成10年度 日本体育大学学内奨励研究費(A)個人」に基づくものである。

引用・参考文献

- 1) 社団法人日本トライアスロン連合：競技規則，p. 57, 1999. 9. 19
- 2) 財団法人余暇開発センター：レジャー白書'99. 株式会社文社，p. 34, 1994. 4
- 3) 財団法人余暇開発センター：レジャー白書'99. 株式会社文社，p. 41, 1994. 4
- 4) 財団法人日本レクリエーション協会：余暇生活開発レクリエーション総合研究所'96年版，余暇生活関連資料集，p. 8, 1996. 5

付表1

第13回長良川国際トライアスロン参加の皆様へ

設問により、あなたの感じた一番近い内容の番号に○印をして下さい。また、複数回答のある場合は、複数回答で結構です。お気軽に、お答えできる範囲でご協力をお願いします。

〈 あなたのプロフィールについて 〉

- Q1. あなたの年齢は？
 A. 10歳代 B. 20歳代 C. 30歳代
 D. 40歳代 E. 50歳代 F. 60歳代以上
- Q2. 性別は？ A. 男性 B. 女性
- Q3. 居住地は？
 _____ (都道府県)
- Q4. あなたの職業は？
 A. 会社員 B. 自営業 C. 公務員
 D. 教員 E. 医師・看護婦 F. 主婦
 G. O.L H. 中・高校生 I. 大学生・院生
 J. アルバイト・パート K. その他 ()
- Q5. トライアスロンを始める前に、特に行っていたスポーツはありますか？
 A. サッカー B. バスケット C. バレーボール
 D. テニス E. 野球 F. 競泳 G. 体操
 H. 陸上 () I. その他 ()
- Q6. あなたのトライアスロン歴は？
 _____年 _____ヶ月
- Q7. 初レースへの参加は？ _____歳 _____ヶ月
- Q8. 初レースに出たきっかけは？
 A. 友人・知人に誘われて B. テレビをみて
 C. ポスターを見て D. 新聞・雑誌等を見て
 E. その他 ()

〈 長良川大会について 〉

- Q9. 本大会出場回数？
 A. はじめて B. _____回目
- Q10. 今回この大会に参加したきっかけは？
 A. 友人・知人に勧められて
 B. 会場が近いから (地元)
 C. コースに興味があったから
 D. 部門別 (国際・選手権) で、レースが観戦 (出場) できるから
 E. 開催時期が良い
 F. その他 ()
- Q11. 本大会の目標・目的は何ですか？
 A. 自己ベストの更新 B. 年代別入賞
 C. 完走 D. 楽しくレースを行う
 E. 旅行を兼ねて F. 暑さの克服
 G. その他 ()

- Q12. 本大会を選択した時に、どのような点を考慮しましたか？
 A. 会場までの距離 B. 友人・知人との参加
 C. コース状況 D. 開催時期
 E. 参加費 F. その他 ()

- Q13. 本大会にかかった費用は？ (移動費・宿泊費)
 ※自宅 (知人宅) の方は、宿泊欄に0円を記入して下さい。

A. 2~3万未満 → 移: _____円 宿: _____円

B. 3~4万未満 → 移: _____円 宿: _____円

C. 4~5万未満 → 移: _____円 宿: _____円

D. 5~6万未満 → 移: _____円 宿: _____円

E. 6万円以上 → 移: _____円 宿: _____円

- Q14. 本大会、居住地から開催場所までの移動手段は何ですか？
 A. 自動車 (家族同伴) B. 自動車 (友人・知人)
 C. 自動車 (単独) D. 公共交通機関
 E. その他 ()

〈 トライアスロン競技について 〉

- Q15. 年に何回レースに参加していますか？
 ※距離は関係なし (ショートからロングまで問わず)
 A. 1~2 B. 3~4 C. 5~6
 D. 7~8 E. 9回以上 () 回

- Q16. 大会を選択する時、どのような点を考慮しますか？

A. 会場までの距離 B. 友人・知人との参加
 C. コース状況 D. 開催時期
 E. 参加費 F. その他 ()

- Q17. トライアスロンレースの参加費について、どう思いますか？
 A. 非常に高い B. 高い C. 普通 D. 安い

- Q18. 居住地から開催場所までの移動手段は主に何ですか (他大会) ?

A. 自動車 (家族同伴) B. 自動車 (友人・知人)
 C. 自動車 (単独) D. 公共交通機関
 E. その他 ()

付表1 (つづき)

Q19. 昨年一年間の大会参加にかかった費用は？(それぞれ合計を書いて下さい。なお、項目毎わからない方は、合計のみ記入して下さい。)

- A. 参加費： _____円
 B. 移動費： _____円
 C. 宿泊費： _____円
 D. 合計： _____円

Q20. 昨年一年間のトライアスロン競技に関する道具・器具等にかかった費用は？

- A. 約 _____円ぐらい

Q21. 大会前の食事には、気をつけますか？

- A. 気をつける (Q22. へ) B. 気をつけない

Q22. どのようなことに気をつけますか？

()

Q23. 一週間に練習はどのくらいしていますか？

- A. 総合：週 _____回

(S: _____時間 B: _____時間 R: _____時間)

- B. 種目別 (スイム)：週 _____回 一日 _____時間

- C. 種目別 (バイク)：週 _____回 一日 _____時間

- D. 種目別 (ラン)：週 _____回 一日 _____時間

Q24. トライアスロンクラブがあるチーム又はグループに所属し、練習をていますか？

※ I群・II群から、それぞれ選択して下さい。

[I群 (所属)] [II群 (練習)]

- A. している 1. 一緒に練習している

- B. していない 2. 個人で練習している

- C. 特になし 3. 1・2両方

Q25. 身近にトライアスロンを総合的に、指導してくれる指導者がいますか？

- A. いる B. いない (Q25. へ)

Q26. 指導者がいてほしいですか？

- A. 是非ほしい B. ほしい C. 特に必要ない

Q27. 2000年シドニーオリンピックで、トライアスロン競技は？

- A. 公式種目 B. 公開種目 C. わからない

Q28. その距離はご存じですか？

- A. 知っている _____Km B. わからない

Q29. 日本トライアスロン連合が現在行っている事業は、オリンピックに片寄りすぎていると思いますか？

- A. 思う (Q30. へ) B. 思わない C. わからない

Q30. それはなぜですか？

()

Q31. 1998年9月に行われるロングディスタンス世界選手権の開催地をご存じですか？

- A. 知っている 国名： _____ 場所： _____

- B. 知らない

Q32. ご意見・ご感想をご自由にお書き下さい。

.....

※ご協力ありがとうございました。今後の研究に、充分活かしていきたいと思えます。

(回答は平成10年8月末日までにお願いします。)

日本体育大学 井上 由佳子